

第2回花育推進委員会における意見に対する対応状況について

資料1

No.	項目	内容	課題	H22事業での対応状況
1	花育マスター制度	<p>多人数での制度利用が想定される。 アシスタント的なボランティア登録制度をつくり 花育マスターと一緒に派遣するのも必要。 また、登録するボランティアを育成する制度も必要</p>	<p>制度を実施しながら、生じる問題点や課題を整理・分析し、詳細な運用ルールやサポート制度を構築する必要がある。</p>	<p>アシスタントの育成制度については、H23年度開園予定の(仮称)食育花育Cで実施予定の講習会(実技)で対応する。 ⇒H22はカリキュラム作り等制度の研究</p>
		<p>県の類似制度「花と緑のアドバイザー」では派遣は 一団体につき年2回までの制約があるが、本制度</p>	—	<p>現時点では制度の普及啓発のねらいもこめて制限は設けない。</p>
2	ホームページ	<p>専用のホームページがあると便利。 花育全体の情報を一年間のスパンで見られる、 わかりやすいホームページが必要</p>	—	<p>花育総合情報サイトの開設 H22.9開設予定 (コンペ方式による業者委託)</p>
3	生産現場での花育活動	<p>花産地見学ツアーや産地での体験会などH22年度から一回でもやるべき</p>	—	<p>H22事業計画に反映。 9月頃に秋葉区で実施予定。 また、既存の活動・事業を整理し、生産現場の花育活動登録制度を実施する。</p>
4	歴史講座	<p>何かとタイアップする等工夫して開催すべき</p>	—	<p>子ども(親子)を対象にしたイベントで実施する。</p>
5	わが家の緑化コンクール	<p>見る機会が写真のみ。受賞作品のオープンガーデン等のツアーがあってもよいのでは</p>	<p>現状以上の対応が所管課で可能か。 個人情報の取扱い、応募段階での周知など規約等の変更が必要。</p>	<p>このコンクールは、緑化推進を本来の目的としており、ツアーを行うことは目的ではないため、本事業での実施は考えていない。 ⇒H22は、H23度開園の食花Cイベントとして実施する等、事業の手法を検討する。</p>
6	食育花育センター情報展示コーナー	<p>花文化を紹介する内容を盛り込んで欲しい</p>	—	<p>業者と協議中</p>